滿州日報

油豆行情 (中曆正月初九日)

集市元豆六吊百至六三吊二百
集市紅糧價錢五吊四百文至五吊
市共上車三十餘輛
邊車共來七十餘輛
元日六吊九百至六吊八百

全 … 九舞入 同十一圓
全 … 全 同五圓
全 … 全 同四圓
赤味噌 大樽 同九圓三十錢
札幌麥酒 四打入 同九圓八十錢
蜂印香竄葡萄酒 全 同二十二圓五十錢

鰹 … 八打 同十三圓五十錢
全 … 卷 全 同二十三圓
全 蒲 燒 二打半 同八圓五十錢
筍 四打 同十一圓
梨 全 同九圓五十錢
桃 ミルク 全 同十二圓五十錢
人形

一中等塊炭 全 十五圓五十錢
一全 切込 全 十四圓五十錢
澤鑑 正味四斗四升入 十七圓
サッポロビール 九圓七十錢
(宅合名會社調查)

○報價目
毎月收取八角代賣所及送報人幷無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者毎行二角毎登十日行一角五分登月者毎行毎日一角登長年者價當面議從減 毎張四百文

告示

關東總督府陸軍大將男爵 大島義昌

出示曉諭事照得橫濱正金銀行向於上海天津牛莊等埠專爲利便交易起見發行銀元鈔票所有納欵諸凡交易均用該票無異錄元通用極便商賈爲之暢通實於商務有益已爲人所共知也及至滿洲前爲兵燹之區我日本軍隊使用軍票是以該銀行暫行緩發者也日俄和平滿洲一帶全歸安靖商務亦將見其膺日之興旺我軍隊隨即逐漸撤退所發軍票亦應收回於是橫濱正金銀行茲奉我日本政府允准一面再行發票一面置銀備換以便商務而資滿洲貿易之發達爲此示仰各色旗民紳商等一体知悉爾等嗣後即將該銀行所發鈔票視同軍票均須通用勿得懷存猜疑可也倘有奸謠之徒謠言惑衆碍難通用以博漁利者一經查出立即從嚴懲辦決不寛貸各宜遵照無違特示

明治三十九年一月

告示

橫濱正金銀行ハ從來上海天津牛莊等ニ於テ諸般取引ノ便利ノ爲メ銀元引換ヘキ一覽拂手形ヲ發行シ來リシカ右ハ各種ノ公納其他一般商業上銀貨同樣ニ使用セラレ流通圓滑ニシテ金融ノ距通ニ資スル處多大ナリシハ業ニ已ニ普ネク知ル所ナリ曩キニ滿洲ノ地戰爭ノ區トナリシニ際シ日本軍隊ハ主トシテ軍用手票ヲ使用セシヲ以テ橫濱正金銀行牛莊支店ニテハ一時一覽拂手形ノ發行ヲ見合ハセシモ今ヤ平和回復シ滿洲ハ茲ニ全ク安靖ニ歸シ商務モ亦正ニ舊日ノ旺盛ヲ見ントス而シテ漸次軍隊ノ裁撤セラルヽコトニ從ヒ軍用手票モ亦之ト伴フテ交換回収セラルヘキヲ以テ橫濱正金銀行牛莊支店ハ再ヒ一覽拂手形ヲ發行シ舊ノ如ク商務ノ便ニ供シ益々滿洲貿易ノ發達ニ資スル所アラントス右一覽拂手形ハ日本政府ノ認許ヲ得テ發行シ銀貨ヲ準備シ隨時交換ノ用ニスルモノナルヲ以テ汝等人民ハ之ヲ信用シ軍用手票ト同一ニ公私一般ノ取引ニ受授通用シテ毫モ疑アルヘカラス若シ夫レ奸譎ノ徒妄ニ浮説ヲ流布シ流通ヲ妨害シ以テ利ヲ博セントスルモノアラハ立トコロニ嚴罰ニ處シテ決シテ假借セサルヘシ各遵奉シテ違フ勿レ特ニ示ス

明治三十九年一月

關東總督男爵 大島義昌

三井洋行

啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗火柴煤炭糖海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如布各商光顧請駕臨是荷着

●精製白砂糖新入荷物あり

倉庫部
今回倉庫所在地(青堆子精搗場上隣り河岸)の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は全所へ御照會被下度願上候 (電話百二十八番)

宅合名會社

本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤鑑印幷一切雜貨其名譽已傳播於滿洲至地今又擬在西營子老爺閣街同慈德院內分設支店一所發賣綿絲粗布火柴絲布絨衣衛褊布手巾花巾東洋緞子洋擬鐘表貨物俱全而價值尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請辱臨爲幸
總司理人 田中賴之助謹白

東盛和

本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並滙兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口東兩處自建碼頭能泊輪船二艘機房地方寛大凡泊輪船一艘裝卸貨物極爲利便囤貯油餅豆米麥更爲合宜棧房有輪船一艘名城多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存貨物水脚棧租格外從廉貴客賜顧請到小號面議是荷
司理人 業堯卿謹白

東永茂

機器油房在營口創辦油搾生意多年以本營業非祇做油房事及經理買賣雜貨布疋等物并代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之
正理事 潘玉田 副理事 金德魁
設在營口西北街路南

西義順

本號開設營口西街老爺閣前路南響乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寛大凡中外士商賜顧者請認明招牌決不致悞
本主人敬啓

仁裕號

保裝運各幇火輪船生意兼賣各幇洋什貨糧石等此佈
營口西大廟街路北響乙第十三號

恒有長

本號開設在西大廟街路南第十一號廣福雜貨一應俱全價值格外從廉克己幷另設銀爐包鎔鍺鑄以應急需久爲中外士商所推許凡賜顧者請認明招牌爲荷

元茂盛

油坊買賣元荳荳油荳餅雜色粮石以及代客購辦雜貨布疋一槪發行裝運沙寄船交易南北客商歷有年矣爲此謹白
開設營口西街老爺閣前路北響乙第四十九號

德商 瑞生洋行

啓者本行由外洋運來金山松木大小方子厚薄板片以及樓板並有道木性皆堅固貨高價廉賜顧者乞至本木廠面議
營口西街潮溝西本行主人啓

代代木烟公司

本行專售日本官造紙烟 星象牌(斯達)櫻花牌(提利)百合花牌(利利)均已馳名內外茲特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌(隆沽來福)淸香撲鼻佳美適口而價値極廉諸君欲購可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

茲爲軍用手票公定行市變動敝行販賣各種紙烟雙鶴牌(隆沽來福)百合花(利利)櫻花牌牌(提利)星象牌(斯達)無論批發零售均爲格外減價倘蒙賜顧以廣招徠

特別廣告

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千零拾四萬圓
本支店出張所
橫濱 神戶 東京 長崎 大阪
倫勳 里昂 紐育 桑港 布哇
孟買 香港 上海 天津 北京
大連 旅順 奉天 芝罘 鐵嶺
電話十番 支配人室
電話百八番 事務室
橫濱正金銀行牛莊支店

清酒東自慢、白鹿
朝日ビール
孔雀印平野水、箱根水
上等石炭
以上極廉價を以て發賣致候間御用仰付被下度候也
松茂洋行商業部 河岸通(電話五十二番)

滿洲日報各地賣捌所 滿洲日報廣告取次所

大連市穩岐町三百三十八號 日華運輸公司
大連市磐城町四十九番地 岡野新聞舖
奉天大南門內景祐宮胡同 全泰號
遼陽 遼陽倶樂部 谷口今朝太郎

森病院

一診察 自午前八時至正午十二時 自午後三時至午後五時
一往診 午後三時より
△患者の入院治療を諾す
△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄
姙婦の入院を諾す(取扱主任產婆大道しげ子)
院主 森 矯
醫長 鈴木昌平
營口永世街 (電話一五五番)

大日本政府特定 官製口付紙捲煙草 滿洲一手輸入發賣

江副洋行
營口永世街

今回弊店に於て明治火災保險株式會社代理店引受候に付き建築物、商品、家具、什器、一切の火災保險精々御便利に取計可申御用被仰付度願上候
三井物產合名會社 牛莊支店 (電話六十六番)

和泉洋行

本店開設在營口重盛街、發賣毛布、手巾、小布衫、鏡子、錢袋、帽子、洋蠟、小刀及其餘各種雜貨一概俱全價値格外從廉克己、凡 中外仕商賜顧者、請速臨爲幸、
大阪府堺市熊野町 藤原謹啓

田中牛莊分莊

啓者本舖開設於東營口綏定門外經大阪丸三組精造東緊身洋式襪子羊肚手巾各樣新近進口來的貨寄於本舖代售格外從廉 賜顧者請光臨本舖面閲是幸
田中牛莊分莊謹啓

材木販賣 荒物 秋田洋行

營口永世街第一八四號平野町
本店 下關 秋田寅之輔商店

飯塚工程局材料出售

啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價値格外從廉克己凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞再本十新到各種木料東洋炸子貞眞價實以應各主顧局急之需
國本主人啓

今般小賣部を新設し官製刻煙草の小賣を開始致候間不拘多少御買求被下度奉願候
官製紙卷煙草及刻煙草一手販賣 江副洋行

雜貨卸商

營口元神廟街 關東公司雜貨部

代理 道勝銀行

啓者本行代理道勝銀行匯兌以及押款借款等項格外公道如蒙賜顧請移玉本行帳房面議可也
德商 瑞記洋行代理人謹啓

$4.80 per 6 months.
Rates for Advertisement 20 cts. per line.
Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.

廣告料 一行二十一字詰一回 金二十仙 一ヶ月以上 一ヶ月以內 銀十五仙乃至十仙 一長期連揭減價面議
發行所 清國營口中盛街 滿洲日報社 (電話二九番)

東京電報

●大島總督の歸任 大島總督三日東京出發歸任の途に就く

●同別報 豫て上京中なりし關東總督大島大將は其用務を終りたるを以て來る三日東京を出發し途次名古屋山口に立寄り滿洲に歸任せらる

●臨時事件費の通過 本日衆議院に於て臨時事件費支辨案即決可決せり（以上二月一日發電）

倫敦電報

●英國宮廷の服喪 英國宮廷は故丁抹國皇帝の崩御に對し六週間の喪に居らるべし

●希諸兩皇帝の會葬 希臘國皇帝及び諸威國皇帝は故丁抹國皇帝の葬儀に會すべし

●現政府の反對黨 タイムス及びモーニング、ポスト兩新聞の掲げたる一覽表に據れば現政府反對黨の色合は重もにチエムバーレーン派に屬するものなり（以上一月三十一日發）

●丁抹皇帝の即位 フレデリツキ第八世は丁抹國皇帝として宣言されたり、同皇帝は即位に際し大赦の詔勅を發せらる

●モロツコ會議と獨乙代表者 アルジエリヤに於けるモロツコ會議に列席せる獨國の代表者は曖昧模糊たる態度を取り同國の政策意圖は果して那邊に存するか探知するに由なし加ふるにモーア人種固有の優柔不斷を以て問題の前途至て遼遠なるの觀あり（以上二月一日發）

雜報

●英皇甥御接伴 長崎宮中顧問官には今回下關、長崎を經て鹿兒島に出張せられたるは右は天皇陛下へガーター勳章御贈進の爲め來二月十九日御來着の英國コンノート親王殿下が勳章贈呈の御式を濟ませられたる上御避寒旁々鹿兒島に旅行せらるゝ豫定なるを以て其際殿下が關西各地御巡覽の個所及び御旅館等下撿分の用務を帶びたるものにして鹿兒島にては島津公爵家の磯御殿を撿分し二三日滯在し諸般の取調をなしたる上多分海路神戸に出て大阪、京都の兩地に立寄り夫れ〳〵調査をなし來二月六日頃歸東し更に殿下の接伴員として殿下に隨ひ西下する都合なりと尙英國大使マクドナルド氏も殿下に隨行鹿兒島へ赴くへしと

●淸國官邊の對日本觀 近時淸國大官中に排日の風潮あるとは夙に聞及べる所なるが今淸國大官の意向なりとて傳ふる所によれば外務部左侍郎聯芳、外務部右侍郎署理唐紹儀、外務部郎中徐承濆等は排日派にして目下日本が內外蒙古、新疆、甘肅等に絕えず多數の人を入り込ましたるは其意志測るべからすといひ外務部尙書那桐は日本の平和政略、日英同盟の東亞保全の主義を稱揚し居り外務部尙書瞿鴻禨は右兩說とも不可なりとし今や淸國は決して排日說に惑はさるへからさるも亦徒に日本の淸國保全主義に對して依賴心を起すことも之あるべからす此際宜しく自彊の策を講ずると必要なりとの意見にて外務部員の多數と慶親王と共に同意見なりといふ事實は固より保し難しと爲す

●日露公債と巴里市場 巴里に於ける露國公債の信用は漸次回復しつゝあり來三月を以て巨額の新公債を發行する筈なるが之と相前後して日本政府の公債亦借換あるへしと傳へらる右に就き銀行家側の意見はたとへ日本が公債借換を巴里市場に爲すとも露國公債發行のため故障を起すことは萬無かるべしと一般に信じ居れりといふ

●淸國宗室の奮發 淸國政府にては海軍復興の議あり日本の皇族が兵士と共に軍務に服せらるゝは軍紀振肅及び戰勝の上に大なる關係を有するものなりとして特に嘆服し居れるが此頃某貝子は西太后に謁見し已れ先つ各國を歷遊して細密に其狀況を視察し然る後有爲なる王侯子弟十餘名を選びて東西兩洋に留學せしめ海上軍務を練習せしめんことを奏請したりといふ

●趙將軍と滿洲經營 奉天將軍趙爾巽の電奏によれは日淸協約の結果により奉天の開市、材木共同營業等一切の件は速に協辦し機先を制せされは我利權主權とも維持し難し但其經費莫大にして右開市場、材木業のみにても少くも尙四百萬兩を要すへし日本は滿洲經營につき外債募集の議ある由なれは我も此方法に據るへしと、仍て本件につき目下外務部より直隸總督袁世凱の意見を問合せ中なりと傳ふ

●滿洲守備と北洋軍 直隸總督袁世凱の北洋六個師團中既に完成したるは第二、第三、第四の三箇師團にして右は曩に袁世凱、鐵良が河間附近に於て大演習を行ひしものなるが現に第二師團は永平府に、第三師團は保定府に、第四師團は馬廠にあり然るに日淸條約の結果東三省に駐兵の必要を生し奉天新募の兵は俄にその用をなし難きを以て先つ保定の兵を奉天に輸送し永平の兵は新募兵の入營に際し兵力薄きを以て馬廠の兵と交代せしめ保定の兵のみにて滿洲の兵備不足する時は漸次馬廠の兵を進めてこれを補ふの計畫なりと

●陸軍紀念日の新定 奉天戰役は日露戰役中の最大戰なり陸軍は即ち此大戰鬪中に於ける最も戰況の良好なりし三月十日を選び一は以て同戰役の偉績を懷想し一は以て戰歿者の英靈を慰藉し一は以て軍隊の士氣を振起せん爲め陸軍全般の紀念日と爲すことに定め同日は夫々祝意を表することゝ爲れる趣にて此程陸軍省より當軍政署に通牒ありたりといふ

●撫順の近況一班 數日前歸營せし某商人の視察談に曰く撫順の開放と共に撫順の言葉は市內至る所矢釜しければ試に視察を思ひ立ち出掛けたるが實際の寂寥なるには喫驚せり未だ一軒の日本式旅館なく料理屋なし更に饂飩屋もなければ蕎麥屋もあらす然らば炭鑛の方面は如何日本の鑛夫は又た殆んど其影を觀ず外に日本人にて商賣にても爲し居る者ありやと見るに實際は然らず唯だ不思議なるは斯の如く未だ全く日本を知らさる如き撫順に在て日本人の借りる可き家屋の殆んど絕無なるに在り抑も之れ將來を見越し氣早き連中が旣に業に廣く手を回し居るか爲か寧ろ滑稽に非すや云々果して然るか撫順に開店にても欲する者は前以て十分の視察を肝要とす

●牛家屯停車場の近況 始終缺乏を覺へつゝありし貨車も近來は百二十臺を以て計算するに至れるか一方に於ける貨物は淸國の新年の爲か一時に比し頗る減少せり爲に從來構內は山積せし貨物も今日は悉皆輸送を終り構內は再び以前に歸りて廣々たり土人は淸曆來る十六日を以て休業を了り翌十七日より再び業に着くとの事なれば此所數日を經過せは營口市內多量の貨物は再び牛家屯に輻輳す可けんも以上の如く貨車從前に比し非常に增加したれは構內も今日の如き事はあらさらんも貨物を以て再び堆めらるゝ如き事はなからん要するに貨車の增加せし事は輸送上頗る喜ふに足る也因に今日の貨車は昌圖、鐵嶺、奉天行其の大部を占むとなり

●昌圖近況 北來人の語る處に據れは昌圖府は人口五六万の都會にして商業も可なり繁昌するもの〻如し淸國人の日本に對する觀念は露兵に虐待せられし丈けそれ丈け深厚なる敬意を有す途中邦人に遇へば必ず停步して挨拶を爲し若し尋ねる事あれは親切に指示し若くは案內の勞を取りつゝあり軍政施行以來は殊に日本の措置に滿悅するもの〻如し▲軍政署は府の西隅に在り大原軍政長官の寬厚小林副官の精勵は若やとして治績を擧げつゝあり設立以來日尙は淺きに係らす旣に衞生上の設備に着手し又警察上の整頓を計りつゝあり支那巡捕の養成は憲兵長に依て督勵せられ旣に數十名に上れり▲南方より北方に運搬せらるゝ貨物は非常の巨額にして每日昌圖を通過して北上する車輛は二三千臺の多きに達す兩れは軍政署は今回是等の車輛に對し車捐を課する計畫あり實施の上は多額の捐金を看るならんか▲氣候は營口に比しさまで寒からす土地肥へ農產物も種々耕作せらるゝと云ふ水は營口の比較に非す塩味ある營口水に馴れ居る邦人は一度び昌圖の水を飮むへしその心身の快なる云ふ可らさるものあり▲昌圖は未た開放せられさるか故に邦人と云は〻軍人軍屬の外視察として來り居るもの十數名に過きす然るに遠からす開放せらるゝ由なれは其際に多數邦人の入込むものあるは疑ふべからす▲露國側の滊車は昨今四平街（昌圖より百二十淸里）まで往來し兵士や兵器を積載して引揚げに資しつゝあり彼は一歩々々後退し我は一歩々々前進し遂に長春に於て彼我會合することゝなる而して其日の來るも遠きことにあらさるべし云々

●遼陽の兵站事務 遼陽兵站司令部の兵站事務は一月末日限り仝地守備隊に引續がれたり更に同地の軍政事務並に其の殘務は又た同日より城內軍政事務所に於て取扱ふ事となれりと云ふ

●大連昨今の渡來者 軍隊も漸次引揚を了し滿洲內地到る處不景氣の聲を以て充たさるゝ今日滿洲への渡航者は次第に減少すへき譯なるに今大連より來れる者の談に依れは昨今日本內地より同地に渡來する者便船每に百四五十名あり中には婦女其半を占むるとあり少きも每便船二三十名はあり而して同地を經て海路歸國する者は每回四五十名なれは商船會社の汽船一度大連に入港すれは畢竟百人の日本人を滿洲に置き去る勘定なり云々

●旅順大連の小學校設置 旅順大連地方に於ては漸次邦人の增加し來れるを以て關東州民政署に於ても是等在留民子弟の敎育の一日も忽諸に附すへからさるを思ひ愈々來る四月一日より兩地に小學校を設立するとに決定し此程其趣を發表し設備上の都合もあれば就學兒童を有する父兄は來る十日迄に屆出つへき旨夫々通達せりといふ六千有餘人の在留邦人を有する我營口亦此企て無かるへからす

●營口現在の白米 過日の本紙商況欄に營口現在の日本米が一万俵內外と記載しあるや某白米商は記者に語りて曰く抑も營口現在の白米は主に門司、長崎及び大阪三港の輸出に係り、門司港の輸出米は豊前及び長州米にて長崎港の輸出米は肥前肥後の產也若し夫れ大阪港の輸出米は淡路附近の產出に係ると雖も其數極て少し其他尙は多少の輸出ありたる港無きに非るも擧けて數ふへき程のものにあらす更に又た別にあらさりしか如し強て之に加へんか大連より輸入せし商人之れありたるやと云ふ滿倉の拂下け位也即ち營口現在の日本米は結氷以前以上の三港より輸出せし殘額と觀て大差なかるへし今夫れ當時に溯りて其の輸入總額を調查するに精確の數量は得て明言すへからさるも實際に於ては一般の想像の如く多からさりしや明也又假令當時は其の輸入多量に達したりと雖も其後に於ける營口の消費併に遼陽奉天の輸出米中又實に僅少にあらさりしとせば現在の數量は如何に多數に見積るも五千俵以上に上るへからす号して一万と云ふは爲にする所の言、然らされば調查の粗漏也云々更に仝人は現在の不景氣に付て謂ふて曰く在住者六千人に對する五千俵の白米、其數に於て敢て多しと云ふ可らす而して不況斯の如くなるは抑も別に原因あり、原因とは何んぞ他なし臺灣米の拂下即ち之れ也、固より他にも少々の原因は無之に非すと雖も第一の原因は正しく拂下に在り、正蓋し臺灣米の拂下か白米の輸入商人に對する一大痛棒たるや旣に一般の認識する所にて今更に吹聽するの價値無きなりと雖も實際の打擊は實に一般の想像以上に在り拂下米は今日に於て尙は確に否登々日本米の頭を押へつゝあり復た其所有主の昨今に付ては曰け將來を見越し困難を彌縫して買控へたる者等も今日に於ては最早、維持の勇氣なし此時に當り軍票は非常の好況を以て騰貴し、實に九十八錢と云ふ驚くへき價格を保つに至りたれは內地に爲替を附し勘定を決濟するは今日に在りと愈々賣却に決心せるは現在に於ける一般の胸中也終に仝人は現在の所持者に付て曰く現在の白米所持者は、世間熟知の分を除きては田原洋行、難波洋行、李後商會、加藤洋行、太田洋行、（委托販賣？）等其の主なる者ならんか而して以上の中に於て最も多くを有するは田原洋行ならん、難波洋行に四五百俵斗りと之れありたるは確に之を見たるも少しく以前の事なれは今日は果して如何か李後商會の在高は五百俵位ならん、加藤併に太田は其以下ならん云々

●滊車中の注意 近時滿洲內地の開放と共に邦人の旅行者著しく增加したるが同時に滊車中にて盜難に罹る者日一日より多く現に過日も大石橋より得利寺に至る間に於て夜中金五十圓を竊取せられし者あり途中下車せる支那人の多かりしを以て多分支那人の所爲ならんといふ睡眠中に出來することも多ければ特に注意すべしとなり

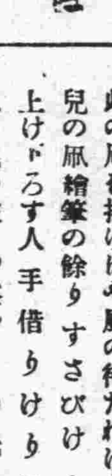
●奉天の日本人會 奉天開放以來邦人の居住するもの日に月に增加し今や千數百名の多數に上るに至れり今般有志の面々協議の上日本人會を設立することゝなり其筋に願書を差出したるに當局に於ても異議なく許可したれば不日役員等を選擧する筈なりと云ふ

●加藤洋行の雜貨値下げ 軍票騰貴の結果諸物價の下落するは必然ならんと待ち受けしも今日に至るまて未だ其現象を看す然るに當地屈指の雜貨店加藤洋行は今後諸雜貨を五分値下げを以て販賣する筈なりと

●興倉司令官の歸營 去月末要件の爲め北京へ出張中の興倉司令官は昨夕歸營せられたる筈なりと

●でたらめ草 西洋の婦人は三十といふ坂を越すと花の如き紅顏も滅切やつれて來る日本でも同じであらうが西洋婦人は殊に酷いやうである▲然るに近頃或書物を讀んだら肉食をすると容色が衰へ易いと說いてあつた西洋婦人が三十前後で見る影も無き迄にやつれるのは全く其爲めであらう▲一體肉食動物は小供の時は非常に可愛らしいが年を取ると醜く爲る狗猫は其一例である草食動物は却て小供の時が醜くいのが多い馬牛の如きは其一例である併し一概に言ふとの出來ないのは勿論である（△△生）

●藝妓仲居周易判斷 朴齋老



祇園圍 お新

本名 小木曾シム（明治八年一月二日生）

ヤレ〳〵らべばうに寒いこつちや、奉天遼陽も寒いが營口はあちらより餘程暖かいと思ふて喜んで歸つて來たが格別の變りもないわい、兎角年を取ると寒さが大の禁物じや、ぞれ炬燵へでも暖ろうかなヤレドツコイシヨ、旅をして仙氣が一層ひどく躰にこたへるわい、どうも困つたものじや 御免下さい、ヘチナ誰れか呼んだ樣じやが誰れだへ、ドン〳〵〳〵御免〳〵〳〵ハイ〳〵誰れだえせはしない、今明けてあげますぞへ、ヨー誰れだと思へばお新さんかへ、先生御機嫌さんで、ながくお目にかゝりませんで聞きますれば田舍の方へお商賣で、實はナなが〳〵旅をして居りましてこちらの姐さん方へ飛んだ御無沙汰致しました、してお前さんは例の易を見て貰ひにかへ、ソレは〳〵折角の事じや、が今日は不快で寢て居るから明日あたりから見て進じよ、先生夫れはお困りでしようが、實は先生今日伺ひましたのは親指の目を忍んで極內々に參りましたのですサカイ明日と仰せられては、出るのに大變難儀ドスサカイ是非にお願申ます、よろし外ならぬお前さんのお賴みじや見て進じようズート上らつしやい。エヽト成程お前さんも大分若い時かに苦勞をさつしやつたな當年左樣三十二歲の姥櫻、最早色も香も失せけりじやが中々どうして、扨てお前さんの生れ故鄉は地震の名物岐阜は羽島郡笠松町本名は小木曾シムと申され、死んだ岩二郎さんの姪で勇吉さんの長女であろうがなそれからお前さんの幼少の事は判らんが年頃には家の貧困よりお前さんはあの喜樂とか云ふ女が降るアメリカに袖も濡らさじと厭なんで死んだ程の目色毛色の變つた西洋人に身を任かせてラシヤメンと云ふ厭らしきものに爲つたで御座らつしやつたじやろう（まだ〳〵）

●市井事故 元神廟街相原良藏（廿）は道路に於て放尿の現狀を憲兵に認められ領事館に送致一圓の科料、三日月樓料理人樺島彌三郎（四十二）は筒袖に前垂を着け帽を冠らず外套を頭より被り憲兵宿舍の前を通行せるを又永世街西海洋服店職工吉田五郎（廿）は第二市場附近に於て洋服を着用せるも帽を冠らす其上に靴を穿たず靴の代用に草履を穿ち胸部を開き通行中何れも憲兵に現認せられ其筋へ告發せられたりと

●遼陽花信 前に遼陽に始めて居住營業の許可せらるゝや開放を今や遲しと待受けつゝありし營口大連等の婦女は蟻の甘さに就くが如く一時に遼陽へと押掛け來りて其最盛時に於ては八百人と注されしが其後後方の開放されしより漸次奉天に轉住し今や奉天全盛の時代にして遼陽に殘留する者僅に三百人內外に過きす酒樓の景氣は連日連夜寂々寥々として犀の棲みたらんが如くお茶挽の多き意想の外に在りとは某粹客の歸來談なり

凧十句 鈴木醉雨

此の凧を揚げはや風の待たれけり
兒の凧繪筆の餘りすさびけり
上げ下ろす人手借りけり凧
凧の尾の波うつ空や日の光り
我が凧のうなり天外萬里かな
梢削り凧の骨こく爐邊哉
凧雲や凧揚げなんと朝語り
此の糸に揚ぐべき凧の見まほしき
尾短かに風邪ひき凧の急き哉
日每繰る尺一尺や凧の糸

汽車

▲上行車時刻表
車站名 午前點分 新民屯 營口 至山海關 上 六、〇〇 八、二〇 到午前點分 下 九、五七 六、〇〇

▲下行車時刻表
車站名 北京 至山海關 開午前點分 上 八、〇〇 到午前點分 下 六、二〇

野戰鐵道普通輸送列車發着時刻表
大連奉天間 下り列車
驛名 遼陽 大石橋 著午後 三、五〇 一〇、三二 發 四、五五 一一、三五
大連旅順間 上り列車 旅順 大連 營口 著午後 二、〇三 五、三二 下り列車

天氣
營口地方 自昨日午後六時至本日午後六時

雜報

配偶の選擇
(學士會院例會席上に於ける箕作博士の講演)

▲人爲淘汰の必要　動植物の人間日常生活に必要なるは素より言ふまでもなく、家畜動物栽培植物の改良と、進歩と、是亦國家民人に喫緊の事業たるは何人も之を爭はず、而して其改良進歩は結局人爲淘汰の理法に依る、人は淘汰の理法を應用するに依つて家畜蔬菜の種類を良好にし得るのみならず又新なる種類をも作出し得るなり。

▲日本人と淘汰の應用　由來日本人は事實に於て巧に人爲淘汰の理を應用するは不思議なる程にして、菊金魚等の培養飼養法の學理と一致せるは何人も之を認むる所なるか現に植木屋金魚屋の説明を聽くに其語調までダルウイン一流の學説と殆んと符節を合したるか如きものあり。彼の土佐地方の長尾鷄の如きは極端に淘汰法を用ひたる一例と見て不可なかるへく、此種類に付ては未た學者間に一定の説無きも予は土佐藩侯が參勤交代に用ひし毛槍に成るへく羽毛參々たるものを得んとの虚榮心より此種鷄の飼養を奬勵せしに原因したるならんと信す。東京附近の二合半なる土地に非常の早稻を産するが如きも、亦淘汰法適用の著るしき一例なり。

▲西洋人と淘汰の實例　電話の發見者にして啞と談話を爲す方法に付き苦心しつゝある米國のベル氏は、其別墅に種々の家畜を飼養して人爲淘汰の試驗を試み居れるが、一群の綿羊中常に二孖を産むものあり、其綿羊の乳房が他に比して多きを發見し、同一種を交尾せしめて遂に二孖種綿羊を生するに至れりといふ、又同しく米人ボルバンク氏は植物培養法に妙を得たる人にして、シャボテンに淘汰法を行ひて之より美味の食用を得るまで改良の功を積み、之を砂漠に植付けて其開拓を圖らんとすと云ふ。

▲改良と改惡　要するに淘汰其宜しきを得れは改良の實を擧け得へく、宜しきを得されは改惡の結果に陷るを免れす、而して人爲淘汰の行はるゝは植物と下等動物とに限らす人類に於ては尚此理法の行はるゝを見るなり、唯之を行ふには人の見て最も神聖視する結婚に依らさるへからずして、他の動物とは異り頗る困難なる事情存するは避くへからすと雖も、所謂人種改良も亦社會政策の一端たるへき價値は十分に之れ有りと思はる。

▲人類淘汰の實例　フレデリック大王は其性癖として大兵を好み大男に大女を配して人爲淘汰を人間の上に行はんと試みたり、唯大王の威を以てするも結婚のみは强制して行はしめ難く、而も其効果は數人の後に表はるへきものなるを以て、成績の如何なりしやは姑く措くとするも、米國某地方には啞者の婚姻行はれ子々孫々に至るまで啞者なるより、遂に五官の一を缺ける人種を生するに至らんとて深憂を懷く者ありとは曾つて聞ける所なり、此等は不良の人類淘汰と見るへきものならん乎。

▲配偶選擇の必要　婚姻が人生の大事たることは個人の幸不幸の上より云へることとなるが、配偶選擇の風習如何は國家國力の上より見て頗る重大の影響を有することとなり、風習の良不良より生ずる結果は數代の後にあらすんは觀測するを得さるを以て世人多くは之を閑却して顧みすと雖も、或意味に於て適當なる人爲淘汰を行ふは經世家の最も注意を要する所にして、此等をこそ眞に國家百年の大計とや云ふへきものならむ（未完）

●遼陽通信　杜萬頃

稻垣木葊君足下、筆硯健在、欽仰に不堪候、社中の諸君、必す君と同樣ならん、幸ひに余の爲めに意を致せ、至囑々々

余は舊臘、斯地の仁々に招聘せられて、勃窣蓁るも、例に依りて例の如く、到底もお噺になつたものにあらす、日本人會に寄食して、我儘を吹き申候、余を知るの貴兄等は、荷厄介を背負ひ込みたるを、憐笑せしならん、呵ゝ、貴地谷口君の囑に依りて月次報道を怠らさるへくも、例の疎懶病、筆硯と相親ます、爲めに延引仕候段、御海容を乞ふ

▲お正月　去る二十五日は、恰も舊曆正月元旦にて、淸國人のお正月なれば余は、城守尉衙門、宗室德裕、何知州、丁總警官長、馬隊長を訪問して、年賀をなす、例の淸國人は、辭禮に巧みにして、文雅に嫺ふ、到底北陸の樸野、余等の如きを後に瞠若たらしむ、幸ひに同文の國、筆談にてお茶を濁らし申候、市中の雜劇、殊に獅子舞は、兄と余との故郷なる、尾山の獅子舞と恰も似たるは、一奇と謂ふべし、而も勇壯烈猛なる劍戟にあらすして、弄玉の優長なるは、淸國の呑氣なる所以か、非耶、

▲遼河の運河計畫　こは大問題なり、遼陽に、去る偉人あり、名を古森藤太郎と謂ふ、氏は福岡縣人にして、頗る社會の辛酸を嘗む、而も筑豊炭山に經驗あり、之を悟入して、而して撫順、烟臺に逍はんとす、撫順、烟臺の炭坑の饒富なることは、萬人の知悉して、余等の禿筆あげつろっべくもあらす、此の兩炭坑も運輸の利便あらされば、或は高價を拂ふに至る、東淸鉄道一線を以てすれば、運賃を嵩むべし、從て運輸不便なるべし、遼河の上流、太子河、渾河、遼河の三流は、遂に遼河に朝宗す、斯三河は、羊腸、迂回して、直流の三四倍をなす、若し之を直截疏開すれば、時日に於て、運賃に於て、其利益大なるを知る、況んや沿河の工業を發達せしめて、遂に滿洲の大發展をなすに至る、是れ獨り遼陽の繁昌のみならず、延ひて營口の大發展をなすや知るべし、知らす在營口の貴顯紳士、斯論に耳傾けるの勇氣あるや、偉人なる古森氏、斯業に就きて疑食を聊んせす、恰も狂者の如し、成功は未來にあり、千仭の功は一簣より防る、營口、而して遼陽の富豪は、氏の爲めに一臂の力を假すや否、

▲遼陽一覽編輯　日本人會の事業として、同書を編纂す、會長海南右門氏は、之に序して曰く、「遼陽府を立つる舊し矣、白塔建築の考據遼たり矣、我の露國と釁を啓くや、我兵一呼して遼陽城を拔く、贏得たり滿洲發展の籌策大計、督府を斯地に置き、總督蹕を駐め、庶政伊れ防る、邦人雲集蟻附して、荒服の外、新に領土を建つるの觀あらしむ、而して斯の土宜民俗、制度文物の事、我に於て知悉せすんばあらず、余や乏を日本人會長に承け、夙に斯事を念とす、適々蕨山伊之吉君、千里筆を載せて來り、遼陽城頭に相遇ふ、君卒然として曰く、一書を輯して斯地の事物を鼓吹せんとすと、余は事の夙志に冥契するを懌ひ、之を贊し、貲を捐て剞劂に附せしめ、題して遼陽一覽と謂ふ、剞成る、之を引となす」と近日發刊するなるへし

▲故人多く捐館　元と縣地の令尹、岩村高俊男の捐館謂はすもがな、余の私淑して、而も知を辱ふしたる櫻痴居士、終に白玉樓上の人となる、貴兄尊大人、義方翁の知人にして、西鄕南州翁の幕下の橋爪武氏、亦た逝く、貴兄知るや否、東洋日の出新聞、鈴木天眼氏を助けて、椽大の筆を揮ひたる野田耕月、頃日訃音に接す、近日偉人多く易簀す、知らす吾兄爲めに一掬の涙あるなるべし、噫、

東西叢話

▲害蟲驅除電車の發明　廿世紀は電氣時代であると云はれる程電氣の應用が盛んであるが、此に又露國人にして電氣の力で害蟲を殺滅する器械を發明したるものがある、此器械の裝置は極單純なもので、手車の上に發電機があつて、其車が運轉すると、其運轉によつて電氣か起り、かくして起つた電氣か一方には鐵の車輛、一方には銅線て出來て居る刷毛の樣になつた鋤の尖端から、地上に流通して、此手車か運轉して居る間は、絶えず地面に電流を送り、其電擊によつて附近に居る總ての害虫を殺滅するものであるそうな。

▲石油王の收入　スタンダード石油會社が昨年の收益は四割即ち八千萬圓て其内半額はロックフェラー氏への配當である、氏は此外鐵道瓦斯等尚多くの株劵を所有し居れは内輪に見積りても一個年の純收入は總計八千萬を下らぬであらうと云ふ

▲低廉なる新殺菌劑　倫敦の市醫のアレキサンダー博士は、先頃同市會に電氣を通じた海水は、非常に强さ殺菌性を有して居るものであるとのことを報告して、從來使用されて居る諸種の殺菌劑の代りに、此海水を使用されんことを主張して居ると云ふのは、此海水を使用すれは從來の費用の三十分の一にて事足りるから、經濟上大に便益てある、經濟上便益か大なれは、從つて之を使用することも容易になつて、衛生上に及ぼす効果は決して尠少てない

公示

一、厚皮燒屑　二十貫匁
一、短靴燒屑　二十組
一、冬綿絆袴下燒屑　四百貫匁
一、カタン糸燒屑　三百個
一、羅紗燒屑　五十貫匁
一、燒屑鐵具類　三十貫匁

右明治三十九年二月十日午前十一時牛家屯兵站司令部に於て競賣ス依テ本日ヨリ現品ノ縱覽ヲ許ス牛家屯縫靴工班ニ付テ見ルヘシ

明治三十九年二月一日

營口兵站司令部

募集公告

當局電話交換手募集す志願の者は(日本人にして年齡十六歲より二十五歲まで視聽力完全身体健康なるもの)自筆履歷書携帶當局へ出願す可し

營口軍政署電話局

傭技手　小里智三郎

右の者當組勤務中事務の引繼を了せず自儘に立去り居所不分明に付解傭致候條以後當組に何等の關係無之者に付此段廣告候也

遼陽　有馬組支配部

M. Iizuka,
CONTRACTOR,
ARCHITECT AND CIVIL ENGINEER.

Plans and specifications made to order.

ESTIMATES SUBMITTED.
MODERATE RATES.
No. 151 Yuwansinmiao
Ying Kow

藝妓仲居新來御披露

此度新たに内地より藝妓仲居十數名を連れ參り候間御光來の上御評判の程願上候　草々

營口　高砂ホテル　(電話一四五)

廣告

解雇廣告

舊書記　渡邊德重

右ハ昨三十八年十二月二十八日解雇爾來本會ニ更ニ關係ナシ此段廣告ス

遼陽日本人會

謹告

昨年八月下旬營口秋田組閉鎖以後韓國の事業に着手致居り遼東北淸地方の營業は一切不仕從而店員等派遣致候事無之處頃日秋田組或に秋田商會の社員と稱し各地徘徊不正の行爲なすもの有之由聞及候得共弊商會には全く關係無之候に付此段爲念謹告仕置候也

明治三十九年一月

韓國仁川　合資會社　秋田商會
代表社員　秋田毅

廣告

一本社は滿洲及蒙古の事情を日本各地の新聞社通信社及團体若くは個人に通報し又日本の政治經濟社會上の狀態を滿洲各地に於ける團体若くは個人に通報するを以て目的とす

一本社は今般東京通信社と特約し最も敏速なる電報通信を以て帝國議會の情勢及諸般の出來事を報道せしむ在住邦人にして電報通信を購讀せんと欲する御方は至急御申込みあれ

元神廟街四十四
滿洲通信社

一關内外蘆漢鉄道貨物運輸　但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ハ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候
一海關手續　事務取扱　但弊店事務所及郵船會社代理店内派出員ニテ
一鈔關手續　但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱
一船舶荷物取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業

右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候

營口西北街第二七二號
大淸通運公司
營口支店

廣告

右自今關係無之候也

松澤秀男

宅合名會社
營口支店

御料理　滿月　平野町一八二(電話一六二)

御料理　滿月支店　平野町(元都樓跡)

今般内地より撰り拔きの別嬪數名呼寄候に付不相變御引立の程希上候

店主　青木勝惠

西海洋服店

歐米各國最新流行形

永世街一四一(森病院三軒目)　(電話百二十七號)

特別室落成披露

座敷は凡て日本式取扱至極鄭重に可仕候間陸續御來宿あらんことを伏て奉希上候

金城ホテル　旅館部

藝妓仲居新來披露

今回藝妓酌婦無類の別嬪數十名伴れ參り候間不相變御引立の程奉願上候

但し凡て純粹の江戸っ子

金城館料理部

營口

會席　御料理

南隣慶樂温泉

一力

營口永世街　堀万助

營口

會席料理　三日月

Yano & Co.
矢野洋行
Telephone No. 137　電話一三七

諸雜貨、家道具類、呉服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段も極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候

謹言

本家　日本東京神田鍛冶町　堀内大藥房

淺田飴

肺癆痰喘氣急傷風痰嗽小兒風疹病後體弱肺病一切立見奇功
◎たんせき一切◎肺病の特藥◎ひきかせ◎病後のよわり◎弱き人の滋藥

特約大販賣　營口永世街　東瀛大藥房

滿洲大販賣所

營口出張店は結氷中引揚ゲ候ニ付御用向ノ御方ハ遼陽出張店ヘ御來店アリタシ

遼陽停車塲前　池上出張店
奉天　池上出張店

SPECIAL LIGHT
(PILESNER BEER)

スペシャルライト賣出し

スペシャルライト、はピルスナビールにして此種のビールは日本に於ては弊社始めて之を釀造せり
スペシャルライト、は高價を拂ひて元料を特選せり
スペシャルライト、は其味輕くして高尚なり

釀造元　大阪朝日麥酒株式會社
營口發賣　關東公司雜貨部

澤龜之醇良なる風味方高尚

並ニ　札幌ビール　朝日ビール　政府專賣口付紙卷莨　朝日　大和　酢　醬油　瓶詰樽詰　菓子　鑵詰色々　洋酒類　取次販賣

釀造發賣元
本店　大阪府堺市九間町
小樽支店　北海道小樽湊町
臺北支店　臺灣臺北街書院
基隆支店　臺灣基隆街石牌
臺南支店　臺灣臺南街下南河
函館出張店　北海道函館區辨天町
遼陽出張店　清國遼陽城内西街
大連出張店　清國大連豐部
營口支店　清國牛莊港東營口

宅合名會社

東營口郵便局東隣
島田洋服店
新民屯停車塲前
同支店

寫眞　永清
奉天府　大南門裡路西

軍隊用雜貨
日用品雜貨
呉服太物類
化粧品類
陶器類
食料品類
卸小賣
其外新荷着精々安價販賣

營口永世街百七十號（第二市塲東東）
石原商店

酒保品
諸雜貨
卸商
神崎洋行
營口永世街甲百廿七號警務課前
▲其ノ外新荷着種々安價大勉强▼

正札　特別廉價
雜貨　賣出し
一婦人髮道具一切及化粧品色々
一防寒シャツ手袋類
一靴下帽子類
一鑵詰及履物
一小間物一切
一賣藥色々

質屋
永世街森病院隣
和清洋行
志田ます

御旅館
奉天　茂林館
小西邊門内路北
日本物品依托賣買幷ニ滿洲各產物毛皮類ノ求ニ應ズ
追テ
家屋宏壯接待優遇

標子
木板
料木
發賣
營口青堆子
清水寧木局

御旅館兼待合所
並にうどん、そば
今般大々的勉强を以て右營業仕候間御乘降の都度御休泊被下度奉希候
牛家屯停車塲前
若松家
各位樣

和洋會席　御料理
一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候
二奉天支店も本店同樣に大勉强仕候間御光來被成下度候
營口永世街二本町
日本館本店
（電話百三十番）
奉天小西門外大十字街北入橋町
日本館支店
各位樣

奉天日本旅館
瀋陽館
家屋宏壯清潔
接待優遇懇切
開業
奉天小西門外大街路北

萬事勉强乘車乘船好位置
營口中央市塲前
旅館　東京樓
店主　熊田兼次郎
（電話百七十八番）

即席和洋料理　東京樓支店
（電話四十四番）
西洋料理仕出し御需應にず

福
大連揚汽車便
最新着荷
●清酒　白鶴
●北海道產　玉葱
其他雜貨色々
元神廟街
福　田中洋行

官製口付莨、文房具
和洋酒類
鑵詰、菓子
藥品、雜貨
醬油瓶樽詰
防寒具、安價販賣
白米
卸商
十
營口西北街
豐生洋行
（電話十三番）

開行時刻

山海關至天津	上五、〇〇	下五、五五
唐山至天津	上六、一七	上一一、二八
塘沽至北京	上六、〇〇	下一二、〇六
天津至北京	上一二、〇〇	下五、二〇
山海關至北京	上八、	下六、四五
北京至塘沽	下一二、〇	下八、三〇
天津至唐山	上一一、四二	下五、一七
天津至山海關	上六、二五	下六、二一
唐山至山海關	上六、〇〇	上一一、五八
山海關至營口	上七、〇五	下四、五五
溝幇子至新民	上三、〇〇	下六、五七

上り列車　錦州　大石橋　遼陽　奉天

大連旅順間下り列車
驛名　大連　發　午前　七、三〇
旅順　着　一〇、四九

營口大石橋間上り列車
營口　發　午後　十一、二五
大石橋　着　午前　一二、二〇

宮門抄

正月初一日
欽天監奏風從艮地起主人壽年豐
召見軍機
皇上明日辰初至
坤寧宮入座吃肉
初二日
召見軍機
皇上明日卯正二刻至
壽皇殿行禮
初三日
特圖愼百日孝滿請　安　薩廉續假十日　桂伯續假十五日　希朗阿續假五日
召見軍機
初四日
倫貝子假滿請　安　鹿傳霖等同鄉官謝　恩
召見軍機
初五日
肅王謝管理雍和宮事務　恩　方培愷伺候　召見
召見軍機　方培愷
奏事處傳出　派出正月十三日宗親宴　東邊恭王慶王一桌　濤貝勒拿酒振貝子一桌　醇王洵貝勒一桌　倫貝子載一桌

奏議

直督袁奏請酌量開去兼差摺

恩俯准酌量開去兼差以免貽誤恭摺瀝陳仰祈
聖鑒事竊臣承乏畿輔五年於茲渥荷
聖恩優加委任本職之外疊兼各差在　朝廷推誠信用遠過尋常在微臣自顧輇庸時虞隕越然匇不敢固辭或雖經奏辭未蒙
允准因之不敢再瀆者誠以致身之義懸疼之思本人臣分所當爲尤愚性夙所自矢重以微臣澁直之始適値國家多事之秋其時兵燹甫平大亂初定凡百新政胥待經營仰體
宵旰之憂勞俯念時局之擾攘倘能裨補於萬一雖摩頂踵而弗辭區區寸心久荷
聖明洞鑒但臣才本駑下體素羸弱溯自捧檄海外羈留十年變故頻經心力交瘁嗣是家難疊更迭相尋憂患餘生疾病間作腦力侵損血氣耗虧雖在壯年鬢髮早白構思稍過抑至眩暈常恐薄植孱軀不復能勝艱鉅
聖主不棄倚任愈隆畀以兵權授以疆寄過多功寡恩重報輕移直以來政務之殷交涉之繁甲乎各省斯即循分供職尙覺竭蹶不遑況乎事變環生盤錯疊出日俄構釁迫近戰域內籌防務外固封守無一日不在戰兢恐懼之中臣夙夜憂危至上年夏秋之交眠食銳減一病累月才畧之短已可概見疊蒙
聖慈垂詢諭以節勞保躬臣何人斯膺玆
寵眷聞命驚悚至於涕零感激之餘彌自策勵苟利於　國何有於身無如心雖有餘力苦不足旣鮮過人之識又乏兼人之能加以近年更歷諸艱智慮精神俱駸駸乎日減一日而身兼之差計尙八九就使黽勉匪懈詎能措注罄宜設或過失出於無心疏虞乘於弗覺一身之嬰譴不足惜　國事之鑄錯何以堪臣念此至深慮此至熟本應早日陳請徒以遭時不靖未敢上煩
宸聽今幸仰賴
皇太后　皇上如天之福西匪旣淸東事亦定日俄復尋盟好各國相約撤兵薄海內外又安可卜而臣獨負重投艱憂惶待罪將分襟兆驚而力弗能給將因循敷衍而志非所安與其貽誤於後來曷若瀝情於此日縱兼差未能悉數開去而事權必求量爲減輕敬舉數端爲我
皇太后　皇上陳之一訓練旗兵一差應請開去也查八旗兵丁前因仿照北洋常備軍規制辦理是以奉　旨交臣訓練臣比經奏稱事寄太繁慮難兼顧惟創辦伊始不敢不勉任其勞現在時逾三年業經另立一鎭各將士認眞訓習日新月異已漸成精練之師即將來就此擴充亦屬有基可恃而會辦該軍事宜尙書臣鐵良威略才望均足以獨力領此臣可無庸兼轄一會辦練兵一差應請開去也查練兵爲强國至計前經奉　旨於京師特設總匯之處原欲整飭各省軍政使之革弊而從善殊塗而同歸舉國强弱此爲樞紐膺其任者必須全神貫注方能規畫靡遺而臣忝爲外僚旣不獲居中策馭疆事旁午復不暇壹意圖維是以前年冬間臣曾據實疏辭未邀　俞允現該處規模粗具而事體宏大責任繁難臣欲盡其實則力絀於兼營徒擁其名則罪等于溺職反覆審處實不容玷此重寄一會議商約一差應請開去也查各國商約業有尙書臣呂海寰督臣張之洞前侍郞臣盛宣懷等會同議訂臣前以分人多較可藏拙辭不獲　命濫竽至今現開議已歷數年議定所有數國一切宏綱細目已不啻有塗轍之可循縱續議者國勢不同間有出入而柯則弗遠但援引之有據究應使之無難該尙書等成竹在胸情形貫澈駕輕就熟自優爲之有臣不見其益即少臣亦未見爲損臣可無須更參末議一督辦津鎭鐵路一差應請開去也查津鎭鐵路案涉英法兩國界連南北三省事權利權關繫綦重稍一疏忽後患滋多必須專心致志從容計較方足以免罅漏而裨大局臣奉　命之初卽以勢難兼任奏懇另　簡大員議辦在案現在此路合同迄無成議而臣擔荷匪輕於往日精力更遜於從前設冒昧以相從必叢脞之貽悔亟宜重申前請避賢者路庶於□□有濟而私心亦安以上四端或審時度勢不妨稍卸仔肩或顧分循涯實難勝任愉快臣初非敢避勞而就逸更非敢矯讓以鳴謙委因深任寄太重才有所不逮力有所難勝大懼僨事而誤公將益叢愆而長戾萬不得已謹就各項兼差之中擇其可不必兼與夫斷不能兼者披瀝上聞合無籲懇　天恩俯准悉予開去庶俾微臣稍安愚拙之分不至懷汲深綆短之憂並得勉爲職守之供藉以圖墜露輕塵之報感戴矜全永無旣極所有請開兼差緣由謹恭摺瀝陳伏乞
皇太后　皇上聖鑒訓示謹　奏奉　硃批另有旨欽此

中外要聞

●考察政治館擬添設議員　聞政務處王大臣會議以考察政治關繫綦重亟宜優禮賢才始能組織新政擬咨調各省素著名望之員不論資格官階到館一律派充議員中等坐論其向來堂屬名目儀文概行蠲免

●愼重海關道缺　聞政府王大臣議商各省海關道缺多係通商口岸交涉繁非才優幹練人員惟恐易於貽誤應即咨照各該督撫隨時留心查看如果才堪勝任者准其密保奏留其有人地不宜即行奏調勿涉敷衍以資治理而重稅課

●粵督請借洋欵　兩廣總督岑春煊制軍電奏擬借洋欵一千萬兩此次奢作辦理新政經費無論如何要需不得挪用聞所辦之事　一作爲粵漢路股　二開採全省礦務　三爲開辦粵東官銀行　四創設省城自來水　五籌設官紙局　六擬設保險公司又聞其所借之洋欵擬以二十年爲期本利淸還刻粵宮保正與戶部磋商電請照准未識戶部如何答覆也

●議開設賽會于奉省　日本東京大坂京都名古屋等處之巨商擬在奉天省城開一賽會場集聚中外之貨寶產物等類俾供衆人之觀覽欲計日淸貿易之發達於是日本富軸者贊成斯舉並撥給金四萬圓以補其辦款之一部云聞關東民政長官石塚氏刻在歸朝中不日將回任故該巨商等簡撰委員令隨行于該長官以認眞調查一切情事當俟東五月間卽開設云

●張欽使不日到京　聞前駐英張戰和欽使有電到京約於正月二十日間准可抵京倂聞政府擬俟星使晉京後將授以考查政治館提調之說

●請設吉林全省學堂　吉林將軍擬於吉林全省創設學堂內現因教習乏人已請政府設法云

●各國公使不日　覲見　各國公使及公使夫人不日將入覲見外部已經照會各使館矣

●俄國革命之風潮　俄都信云俄將窩斯鍼格將軍當日俄戰役之際率領哥薩克軍團常慨俄軍之百戰百敗因此屢襲日軍頗馳驍名然因日俄議和弭兵前就歸國之途于舊臘下旬漸過莫斯科埠聞某主埠外之際有革命黨派暗据該埠郊外聖安土皮約寺者陡起襲擊該將軍所率之軍團奮擊猛攻於是軍團驚駭不知所爲紛紛相敎而其被拿獲者將校尙有五十餘名之譜倖將軍爲其幕僚所救僅獲身免云

●奉天商務報部　奉天經戰爭之後一切善後事宜及開通商務各節前由商部委辦胡宗瀛主政前往查核情形聞該主政已將回京故將考查情形先行詳部核議

●奉省提倡國民捐　奉省自師範學堂諸君倡捐蒙趙軍帥以其熱心愛國深堪嘉尙批飭登報茲又聞有第二兩等小學堂教員曾君有翼稟請辦理國民捐蒙學務處批飭將所捐之款送官銀號存儲幷飭將捐數及銜名陸續送登報紙以昭激勸云

●迅派員繪中俄交界圖　外部飛電甘肅總督升制軍陝西巡撫聯中丞伊犁將軍馬軍帥烏里雅蘇台將軍馬軍帥喀什噶爾提督焦提台從速分派妥員帶同測繪生火速分途勘驗中俄交界地址詳細繪圖帖說限三月齎送來京以便劃淸界限蓋因中俄議約明春卽開談判不得不鄭重界務也

叢談

●照樣亦然千古奇對　有一個人　初次到北京城來　下飯館子　叫不出菜名　又不願意問人　就靜聽著　打算等隣座要什麼菜　他也要什麼菜　不多一忽兒　猛聽得左邊的桌上　大聲道　照樣　來一碗　那人一聽　牢牢記住　跑堂兒的走過來　說道　老爺要什麼菜　他也大聲道　照樣・來一碗　跑堂的不敢答應　也不敢笑　說道我先去砌茶來　就走了　又有一個書獃子　書念不成　去學做小買賣　提了一個酥糖等等的筐子　到各胡同內　串來串去　不會搖喝　沒有人知道　一塊糖也賣不出去　他招急了　拐過灣來恰巧先有一個賣糖的在前邊　搖喝道　大塊兒的蘇糖嘔　他在後邊趕緊大聲接嘴道　亦然嘔　這亦然二字正對那照樣二字　可稱千古奇對

NEWCHWANG, SATURDAY, FEB. 3, 1906.

H. E. Gen. Oshima, the Viceroy of Kwantung, has issued a proclamation on the contemplated re-issuance of the Specie Bank Note by the Newchwang Branch. The proclamation evidently aims at preparing the public for the *bona fide* reception of the Note, besides warning them against possible tricky practices to obstruct its circulation. The notice runs in substance as follows:

"The Yokohama Specie Bank has issued, at a number of its branches in China—at Shanghai, Tientsin, Newchwang and other points—its own bank notes convertible into silver that have found as free and general circulation as silver dollars, as a more convenient currency. However, when Manchuria came within the war zone and the Japanese War Note was introduced by the Army, as the principal medium of exchange, the Newchwang Branch of the Bank suspended further issuance of the bank note. But, after the return of peace, the withdrawal of the troops has ensued. And with the evacuation, the war notes are to be by degrees redeemed and withdrawn from circulation. The Newchwang Branch will resume the issuance of the bank notes which, under the sanction of the Japanese Government, are to be provided with silver reserve to meet demand for conversion. Any spreadings of baseless rumours on this authorized medium, tending to impede its circulation are severely punishable."

Mr. H. E. Fulford, H. B. M.'s Consul, returned home last Thursday and resumed charge of the Consulate next day.

A presentation took place at the 'Blarney Castle' last Wednesday afternoon. In the absence of Maj. Kaneko, Chief of the Yingkow Supply Depot away at Tairen, Acting Chief Capt. Bando attended by Mr. Maruyama, the official interpreter, called upon Mr. H. A. Bush to offer for his acceptance a pair of solid silver vases and a gold medal as a token of appreciation for his inestimable assistance rendered to the supply service during the Japan-Russia War 1904-05. The presentation scroll written in Japanese, with its English version attached thereto, bears the joint signature of Col. S. Hibiki, Chief of the Supply Depot for the Japanese Armies in Manchuria, and Maj. Kaneko.

The silver vases are wrapped in satin bags and encased in a neat box made of *kiri*. They are of elegant pattern and exquisite workmanship. Each measures 8-in. high and 4-in. in diameter at the broadest part. It has round the exterior, all in bas-relief, a tasteful arrangement of gold-tinted iris flowers in varied stages of expansion. They shoot out of clusters of leaves half immersed in the water. The vases are provided with low rests carved in red sandal-wood. The gold medal has two bunches of the same flowers also, embracing at the centre the transport flag of the firm in enamel. Over these are engraved in two lines, "Remembrance of Russo-Japanese War 1904-05." On the reverse side, it has an inscription in Japanese reading, "For Mr. H. A. Bush as a token of gratitude." An inscription in the same sense, with the two officers names in addition, is found on both vases also. The gifts are the work of the Tenshodo, Tokyo, who are acknowledged as the best silver and gold smiths in Japan. We are informed that "Iris" happens to be the name of Mr. Bush's young daughter, and this accounts for the choice of the flower in her honour. It is further gleaned that the idea of making this presentation is traceable for its first suggestion to that night on Nov. 25th. when Marshall Marquis Oyama and Gen. Baron Kodama, on their triumphal return, met with an ovation at Tashihchao Junction from the Newchwang delegation, of which Mr. Bush formed a conspicuous figure. We are led by signs in the air to suspect that a pleasanter surprise may yet be sprung upon the gentleman. May he not awake one fine morning a proud recipient of a decoration of merit, who knows?

Sharp fluctuations gave a good shake-up to the exchange schedule again yesterday. It will certainly amply pay to closely follow its daily developments these days.

EXCHANGE QUOTATIONS.—(Feb. 2, 1906).

JAPAN	Bank T.T.	98¾
	" Dem'd	99
	P'ate 15 d/s.	99⅝
SHANGHAI	Bank T.T.	71¼
	" Dem'd	71½
	P'ate 15 d/s.	72½
TIENTSIN	Bank T.T.	103¼
	" Dem'd	103
	P'ate 10d/s.	102
LONDON	Bank T.T.	2/- 1/16
	" De'd	2/- ⅛
	Cr. 4 m/s.	2/- ⅝
AMERICA	Bank T.T.	48¾
	" Dem'd	49
	Cr. 4 m/s.	50¼

北豫報

北の晴れ

昨日の氣温　最高温度零下十二度九　昨年との比　低キコト二度四
最低温度十度七　低キコト七度八

營口旅館料理店案内（いろは順）

旅館 第一營口ホテル 元神廟街九十六號

旅館 第二營口ホテル 河岸通り

料理 第三樓 元神廟街三十二號 店主 粕屋忠兵衛

料理 入船亭 永世街百八十三號 谷 初次郎

旅館 日營ホテル 河岸通り 店主 井上源吉

料理 東京館 永世街八十六號 店主 村上京四郎

旅館 東茂旅館 西北街百七十三號 正金銀行西三程

料理 沖の島 永世街十八號 店主 中川彌三郎

料理 吉野亭 永世街八十六號 店主 坪田正好

旅館 竹村館 永世街二十二號（電話五一） 店主 麻田久二

旅館 彌生館 永世街百六十七號

料理 やよひ 永世街百六十七號 店主 宮下只七郎

料理 滿洲樓 南永世街第十號 店主 直塚勝一

料理 萬梅 豊濟門街第百〇四號 店主 田島彌助

御料理 まんなをし 永世街字二本町二百五十九号 元吉田屋跡 店主 和田常松

料理旅館 醉花園 澁谷旅館 永世街百二十七號 店主 澁田留吉

旅館 大和館 永世街六號 店主 前田九一郎

旅館料理 金城ホテル 永世街百六十六號 第二金城ホテル 永世街百六十六號 店主 齋藤富次郎

旅館 東雲旅館 永世街七號 店主 谷口今朝太郎

營口軍政署御用旅館 東雲 主任 谷口今朝太郎

ざるそば 第一更科 さるそば 第二更科 營口元神廟街 永世街鶴の湯角

和洋御料理 元神廟街 第二東京館 東京一流 かき飯 店主 松田平四郎

洋和料理 本店 松月亭 營口元神廟街一四三号

和洋料理 御旅館 支店 滿洲ホテル 遼陽西街西門一一七号

遼陽旅館料理屋案内

旅館料理業 日營ホテル支店 主任 井上源吉

御料理會席 菊水館 主任 朝枝園撻

旅館西洋料理 遼陽館 主任 永瀬宇吉

旅館料理業 公陽館 主任 宮川秀基

御料理會席 末廣屋 主任 山根初之亟

御料理 色々應御注文 凱旋亭 主任 古谷庄太郎

旅館御料理 遼塔ホテル 主任 木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル 遼陽倶樂部 營口東雲館支店 主任 谷口今朝太郎

會席御料理 玉家 主任 西野治三郎

御料理會席 來々亭 主任 石田清

料理 鋤焼 喜楽亭 營口元神廟街 亭主 元權吉

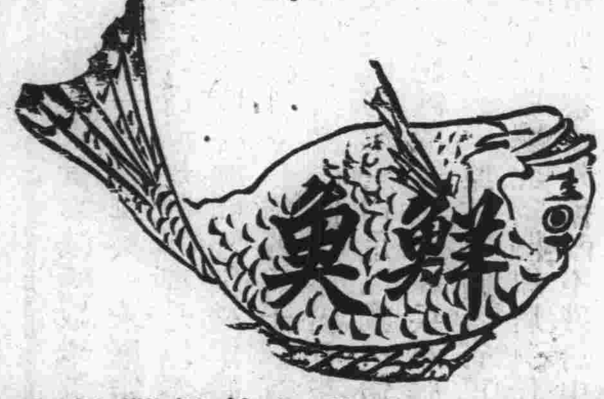
諸鐵工製作
鑛山船舶機械鐵工
輕便鐵道附屬鐵工
土木建築用鐵材料
其外鐵物諸般
營口綏定門街東 シンプ商會
喜川鐵工場

御旅館 豊陽館 上海（電話一〇六番）
日本郵船會社荷客取扱
歐米滊船乗船取扱
館主 米田藤吉

北京 扶桑旅館 東單牌樓大街路西 客室清潔料理鮮新

天津 御旅館 芙蓉館 駐屯軍御用 並西洋料理（電話四十一番）

發賣 料木 標子 木板 塩川商會
清國營口二本町二五五號 主任 鹽川峰吉（電話一三六番）
遼陽小西門内 鹽川商會
建築用材北海道產松大角（自二十五尺至三十尺）二万立方尺餘
外に電柱用材杉丸太長（自二十尺至三十尺）八千本餘
右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也



弊店儀雜貨專業之處今般業務擴張の上日本は勿論滿洲に支店を設け併て鮮魚の御小賣充分勉强の上御用達可申候間倍舊の御用命被仰付度奉願上候 敬具

營口南永世街百廿七號 森屋洋行
大連大山通り二丁目 仝支店
遼陽西門外 代理店 林洋行
奉天小西門外 代理店 米田洋行

工 營口元神廟前 飯塚工程局材料部（電話百三十五番）
弊局土木建築材料品の各產地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候
一北海道產松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦等
一日本石炭數種

雜貨 醬油 味噌 清酒
營口西北街 阪神組
御小賣致候間御用の御方は御通知次第直に持参可仕候也

○上等石炭 一噸に付 銀十六圓
○上等日本米 一石に付 銀二十圓
○板材木 ○木炭
○亞鉛板 ○洋釘
○干墟魚 ○石灰
喜久洋行 永世街八十號（電話百五十二番）

大連 東洋ホテル 大連鐵道停車場附近民政署前兒玉町

S.KATO & Co.
Hongname "Chah Tung."
Yingkow, Telephone No. 80.
Main Store.
Japanese Concession, Tientsin.
General Store-keeper & Commission merchant

酩酒 菊正宗 新着!!
祝新年 營口明覽中定價にて差上ます
雜貨商 加藤洋行（營口電話八十番）
本店 營口
支店 天津日本租界
出張所 遼陽 北京 大阪

爲替相場（二月二日）
上海は百圓に付六十七兩二錢五分▲
天津向は百圓に付一百〇八圓五十錢

日本品最近物價表 加藤洋行調査
樽物類
菊正宗 四斗入 銀二十八圓
櫻正宗 三斗九升入 同十七圓
鑵詰類
ラッキヨ 四打入 同十三圓
辛子漬 五打 同十四圓五十錢
四打 同九圓五十錢
驚ミルク 仝 同十八圓
石炭（飯塚工程局）

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 4 cts. a copy.

本紙定價
一枚ニ付 銀四仙
一ケ月前金 銀八十仙
半ケ年前金 四弗八十仙